

2025 年 北区青少年交流団

ウォルナットクリーク市派遣報告書

2025 年(令和 7 年)8 月 15 日(金)~8 月 24 日(日)



BEYOND_K

きたいを超える東京北区

目 次

1 北区青少年交流団について.....	p.1
2 団員名簿	p.2
3 事前研修・説明会・結団式	p.3
4 派遣日程	p.5
5 ホストファミリー名簿.....	p.6
6 交流活動の概要	p.7
7 帰国報告会.....	p.13
8 団員報告書.....	p.14

※本報告書に掲載している写真は、北区が記録のために撮影した写真及び団員から提供された写真を使用しています。

I 北区青少年交流団について

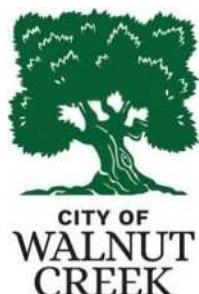
北区は、アメリカ合衆国カリフォルニア州ウォルナットクリーク市にあるセブンヒルズスクールと、長年にわたり中学生の相互訪問交流を行ってきました。

両自治体は、2017年(平成29年)4月25日、この交流の一層の発展を目指してパートナーシティ協定を締結し、文化、教育をはじめ幅広い分野における相互理解と連携をさらに深めていくこととしました。

この締結を機に、北区は、毎年日本の夏休みに区内在住の高校生を青少年交流団として同市へ派遣し、現地の青少年との交流やホームステイを通じて、相互理解と友好親善を深める事業を開始しました。

2024年(令和6年)は、台風7号による航空機の欠航により、残念ながら現地への派遣が中止になりましたが、2025年(令和7年)は、8月15日(金)から8月24日(日)まで、昨年度の団員6名を含む、高校生16名を同市へ派遣しました。

今回の派遣では、団員はホームステイによる異文化生活の体験や、現地の公立高校への通学などを通した交流を実施しました。さらに、同市にある図書館で、市長や市議会議員をはじめ関係者へ英語で北区のプレゼンテーションを行い、北区の魅力を発信するなど、友好親善の礎としての役割を立派に務めました。



2 団員名簿

氏名	学年
葵 竹宏	高 1
荒井 琴	高 2
泉山 令依	高 2
井出 薫子	高 3
小野寺 隼大	高 1
刈込 結菜	高 1
川本 恭輔	高 2
小林 優花	高 2
塙崎 奈穂	高 3
下村 悠太郎	高 1
関口 晃輔	高 2
田渕 海翔	高 2
近間 祐音	高 1
鶴田 紗希子	高 2
徳永 篤志	高 2
渡辺 碧	高 2

(敬称略)

3 事前研修・説明会・結団式

第1回説明会

日時 6月7日(土)午後2時~2時45分

場所 北とぴあ 第二研修室

内容 団員紹介、ウォルナットクリーク市との交流経過について、

スケジュール、諸手続きの説明

第1回英語事前研修

日時 6月7日(土)午後2時45分~4時45分

場所 北とぴあ 第二研修室

内容 英語でのプレゼンテーション準備(プレゼンテーションの基礎)

第2回英語事前研修

日時 6月28日(土)午後2時30分~4時30分

場所 北とぴあ 902会議室

内容 英語でのプレゼンテーション準備(北区の紹介)

第3回英語事前研修

日時 7月12日(土)午後2時30分~4時30分

場所 北とぴあ 902会議室

内容 英語でのプレゼンテーション練習

結団式及び第2回説明会

日時 7月26日(土)午後2時~3時15分

場所 北区役所別館 2階 研修室

内容 区長挨拶、団員紹介、英語でのプレゼンテーション披露、

旅のしおり(旅程及び注意事項など)の説明

第4回英語事前研修

日時 7月26日(土)午後3時15分~5時15分

場所 北区役所別館 研修室

内容 英語でのプレゼンテーションまとめ



結団式の様子

4 派遣日程

日程	曜日	時間	予定
8月15日	金	14:00	成田空港(NRT) 集合
		17:00頃	サンフランシスコ国際空港(SFO)へ出発【NH008】
		10:55頃	サンフランシスコ国際空港着
			専用バスにて、サンフランシスコ市内視察後ホテルへ 観光予定場所:フィッシャーマンズワーフ等
		16:00頃	ホテルチェックイン
		18:00頃	夕食
8月16日	土	10:30	ホテルにて、ホストファミリーと対面式
8月17日	日	終日	ホストファミリーと過ごす
8月18日	月	終日	ノースゲート高校にホストフレンド (ホームステイ先のノースゲート生)と登校
			ノースゲート高校にて授業参加
8月19日	火	終日	8:50 ホストファミリーによるLesher Center of Artsまでの送迎 Public Art Tour in Downtown Walnut Creek 9:00-10:30 Tour of Lesher Center at the Lesher Center of Arts 10:30-11:30 Lunch Time 11:30-13:00 Tour of Police Department at City Hall 13:00-14:00 Free Time 14:00-17:00 The Partner City Event at Library 18:00-19:30 (北区についてのプレゼンテーション) ホストファミリーによる送迎
8月20日	水	終日	ノースゲート高校にて授業参加
8月21日	木	終日	ノースゲート高校にて授業参加
8月22日	金	終日	ノースゲート高校にて授業参加 (夕方)公園でフェアウェルパーティ アメリカンフットボール観戦(任意)
8月23日	土	8:00	ノースゲート高校に集合
		8:30	専用バスでサンフランシスコ国際空港(SFO)へ → 9:30頃 空港到着予定
		12:40頃	成田空港(NRT)へ出発【NH007】
8月24日	日	15:25頃	成田空港到着予定
		16:30頃	(空港で解散)

5 ホストファミリー名簿

氏名	ホストファミリー
葵 竹宏	Thind
荒井 琴	Marshall
泉山 令依	Halverson
井出 薫子	Yogya
小野寺 隼大	Davenport
刈込 結菜	Alekna
川本 恭輔	Bader
小林 優花	Baluta
塩崎 奈穂	Lange
下村 悠太郎	Chu
関口 晃輔	Delaney
田渕 海翔	Rezaee
近間 祐音	Balistrieri
鶴田 紗希子	Stong
徳永 篤志	Leibowitz
渡辺 碧	Warren

6 交流活動の概要

※時間は現地時間

8月15日(金)

14:00 成田空港集合

17:00 サンフランシスコ国際空港へ出発

10:55 ※ サンフランシスコ国際空港に到着

空港からバスでサンフランシスコ市内へ。



フィッシャーマンズワーフを観察

ゴールデンゲートブリッジを観察

16:00 ※ ホテル HYATT house Pleasant Hill 到着



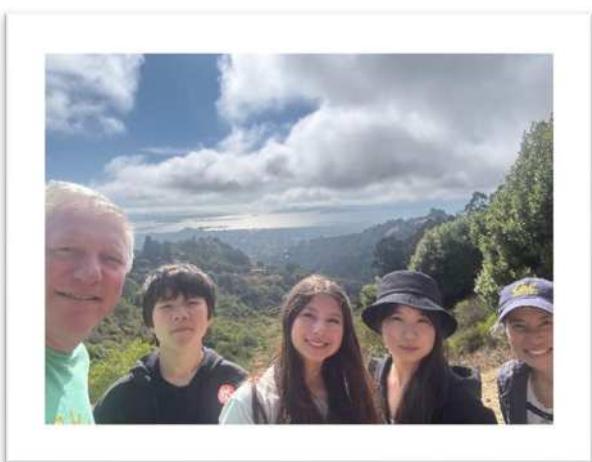
8月16日(土)

10:30 ※ ホストファミリーとの対面式

みんな緊張していましたが、迎えに来てくれた
ホストファミリーに英語で挨拶できました。



8月17日(日) 一日、各自、ホストファミリーと過ごしました



8月18日(月)

7:33 ※ Northgate High School にホストフレンドと登校



ランチタイムではカフェテリアの
ランチを食べました。

8月19日(火)

9:00 ※ アートツアーに参加

13:00 ※ ウォルナットクリーク市役所&警察署訪問



様々なアートに触れる



警察署内の見学

18:00 ※ 市立図書館で北区についてのプレゼンテーション

団員は、図書館で、市長・市議会議員やホストファミリー

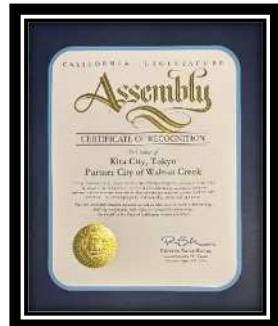
の皆さんに北区の魅力を表現力豊かに伝え、傍聴人から

大きな拍手をいただきました。



Hi! Kita City Introduction

北区についてのプレゼンを終え、
市長・市議会議員と記念撮影



カリフォルニア州議会から、サプライズで
北区とウォルナットクリーク市の交流事業を
称える表彰状をいただきました。

8月20日(水)

7:33 ※ Northgate High School にホストフレンドと登校

音楽の授業



数学の授業



体育の授業

8月21日(木)

7:33 ※ Northgate High School にホストフレンドと登校

11:28 ※ 団員とホストフレンドの交流を目的とした特別教室に参加



Honey 先生による
特別教室の様子

ホストファミリーが
お菓子を用意してくれました



8月22日(金)

7:33 ※ Northgate High School にホストフレンドと登校

10:44 ※ スクールラリーに参加

ダンス発表の様子



17:00 ※ 公園でフェアウェルパーティを開催

8月23日(土)

8:00 ※ ホストファミリーとのお別れ



多くのホストファミリーが見送りに来てくれました。

8:30 ※ バスでサンフランシスコ国際空港へ

12:40 ※ 成田空港へ出発

8月24日(日)

15:25 成田空港に到着

7 帰国報告会

帰国報告会

日時 8月29日(金)午後4時15分~5時

場所 北区役所 庁議室

団員は、ホストファミリーとの交流やノースゲート高校での体験など派遣先で感じたことについて、「今しかできない貴重な経験ができた。」「経験を将来の夢に活かしたい。」「日本の高校との違いに驚いた」など、区長に堂々と報告しました。

区長からは、「ホームステイや現地高校への通学などを通じ、多くの人と交流し、互いの文化を理解し合えたことは、忘れられない思い出になったことと思います。これから長い人生の中で、今回の経験が生かされることを願っています。」とコメントがありました。



8 団員報告書

葵 竹宏

荒井 琴

泉山 令依

井出 薫子

小野寺 隼大

刈込 結菜

川本 恭輔

小林 優花

塩崎 奈穂

下村 悠太郎

関口 晃輔

田渕 海翔

近間 祐音

鶴田 紗希子

徳永 篤志

渡辺 碧

※ 明らかな誤字等の修正を除き、可能な限り原文のまま掲載しています。

葵 竹宏

「ホストファミリーの紹介」

私のホストファミリーは、4人家族と犬1匹でした。ホストファザーの名前は Karanbir さんで、落ち着いていて優しい人でした。日常的な会話をよくしました。ホストマザーの Navnidhi さんはとても面倒見がよく、よく私を気遣ってくれました。家族はインド系で昼食はインドカレーを料理してもらいました。それは、日本で売っているインドカレーとは違ってとてもおいしかったです。ホストフレンドの Uday さんは私と年齢が近く、一緒に勉強したり遊んだり趣味を共有したりしました。アメリカでの授業でもわからないところをよく教えてくれて、一番よく会話をした人でした。アメリカのリアルな会話や話し方、考え方をよく知ることができます。ゲームを通していろいろな表現も知ることができていい機会になりました。弟の Amer さんは元気な人でした。犬の Gino はとても人懐っこく、いろんな人と遊んでくれる元気な犬でした。一緒にタコスやハンバーガーなどを食べに行き、日本では体験できない様々なことを経験させてもらいました。家族全体が明るく、私はすぐに打ち解けることができ、充実した日々を過ごすことができました。

「アメリカでできたたくさんの友達との日常」

アメリカの空港に着いた頃、サンフランシスコの空は曇っていました。アメリカは少し涼しく 28°Cくらいでした。到着後すぐバスに乗りガイドさんと共にフィッシャーマンズワーフという観光スポットへ行きました。バスに乗っている間、なぜアメリカは曇りが多いのかも教わりました。その後ゴールデンゲートブリッジを少し見て帰りました。

次の日、私たちはホストファミリーと対面しました。家がとても広くプールがありました。その後ホストファミリーとともに「チキンフィレ」というフライドチキン屋さんに行って昼食を食べました。アメリカでよく食べられているフライドチキンだと説明してくれました。

学校では、ホストフレンドと一緒に授業を受けました。一番面白かったのが、理科の授業で本当にナイキの靴を履くことで速く走れるのかという問い合わせと一緒に考えたことで

す。そこでたくさんの人と話して友達がたくさんできました。Alex と Criss、Hiro など、たくさんの友達ができました。昼食はホストマザーが作ってくれた、バターをしみこませたパンにいちごジャムとピーナッツバターを挟んだものを食べました。アメリカでは一般的だとホストマザーが言っていました。

アメリカでの授業は日本のように先生が黒板を使って生徒が黙々と問題を解くのではなく、友達とたくさん会話していろいろな考えに触れていき、自分の思考力を伸ばしていくという授業でした。みんなが自由に意見を言い合い、間違いを恐れずに発言する姿勢がとても印象的でした。友達との話し合いを通じて、一人では思いつかなかったアイデアがたくさん生まれることを実感しました。

現地でホストファミリーとたくさんの食べ物を食べました。タコスやハンバーガー、ホストマザーがインドカレーを調理してくれたこともあります。私のホストフレンドの Uday は Alex とともに仲が良く、Alex の家でご飯を食べたこともあります。Alex のお母さんはペルー料理をふるまってくれました。アメリカは多民族国家なので、たくさんの考え方と習慣、食べ物があることがよく分かりました。

アメリカの中華街などにも一緒に行きました。様々な文化が混ざり合っている街の様子を見て、多様性の豊かさを感じました。

発表では練習時よりもうまく発表できました。たくさんの友達が応援してくれて、緊張していた気持ちも和らぎました。

この 10 日間で日本とアメリカの違いを実際の体験を通して感じることができました。特に、アメリカの学校での自由な議論や、自分から問題を見つけて共有する姿勢は、これから自分の学校生活でも活かしていきたいと思いました。また、多様な文化背景を持つ友達との交流を深めたいと思いました。



荒井 琴

「ホストファミリーの紹介」

私がお世話になったホストファミリーは、父・母・姉・弟の4人家族でした。みんなとても親切で明るく、初日から温かく迎えてくれたのが忘れられません。お父さんのカイルは、場を和ませてくれるユーモアのある人で、アメリカンジョークでいつも家族を笑わせていました。お母さんのマルガはスペイン出身で、仕事に誇りを持つキャリアウーマン。忙しい中でも私のことを気にかけ、異文化や働き方についてたくさんのお話をしてくれました。姉のマギーは学校に一緒に行き、授業や休み時間をともにする中で、友達を紹介してくれたり、分からぬことを助けてくれたりと、とても心強い存在でした。弟のロベルトは日本に強い関心を持っていて、アニメや日本語について質問してくれることも多く、すぐに打ち解けることができました。ホストファミリーと過ごした10日間はあっという間でしたが、まるで本当の家族の一員になれたように感じられ、私にとって特別な時間になりました。

「High School Days —10日間の出会いと発見—」

今回の滞在で最も印象に残っているのは、アメリカのハイスクールで過ごした10日間の学校生活です。公立のノースゲートハイスクールという高校に通いました。この学校は日本でいう中学3年生から高校3年生にあたるグレード9から12までの約1500人が通っている大規模な高校でした。16歳から車の運転が許されているため、自分の車で登校する生徒も多く、私も同じ年のシスター、マギーの運転で学校から帰ることがあり、とても新鮮な体験でした。

校内では日本では考えられないような光景にたくさん出会いました。授業中にガムを噛む生徒や、歴史の授業で外に出て遊ぶ活動、宿題提出でキャンディーをもらえる先生の工夫など、学びの自由さに衝撃を受けました。特に忘れられないのは、生物の

授業でなぜかピクルスを解剖したことです。また、ランチの前にある「ブランチ」の時間では、ベーグルやクロワッサン、シナモンロールなどの軽食をもらえ、その自由な雰囲気に驚きました。ランチでは、マギーの友達 10 人くらいと一緒に輪になってロッカーの前の地べたに座り、ピザやリンゴを丸かじりしました。日本から持っていた富士山の形をした消しゴムやハイチュウなどのお菓子を広げると大人気で友達が取り合いになるほどで、日本が人気でとても嬉しかったです。

ランチで出会ったシスターの友達のソフィアとは特に打ち解け、夜に公園で開かれてたフェスに一緒に行きました。そこでダンスを楽しんだり、家からお菓子を持っていってナイトピクニックした時間は、学校の授業とはまた違った特別な思い出になりました。放課後には、シスターのマギーと一緒に量り売りのアイスクリーム屋さんに行き、好きな味やトッピングを選んで食べたことも心に残っています。こうした経験を通じて、勉強も学校生活も「楽しみながら学ぶもの」だと実感しました。自由で温かい雰囲気の中で過ごしたアメリカでの 10 日間は、私にとって忘れられない、特別な時間となりました。





泉山 令衣

「ホストファミリーの紹介」

私のホストファミリーは、ハルバーソン一家でした。母のアンナ、父のライアン、長男のオリバー、次男のエリオット、三男のアンドリュー、そしてコッカーパーのモチの 5 人と 1 匹の家族構成でした。オリバーはアメリカの別の州の大学に行っているため会うことはありませんでした。アンナはかつて神戸の大学に行っていたり、ファミリーで何度も日本に来ていたりと日本と多く関わりがあり、日本の若者にアメリカの文化を知ってほしいという思いからホストファミリーになったそうです。

彼らは私が渡米する前から私のために大まかな計画を立ててくれて、そのすべてが楽しそうで大きな期待感を抱いてアメリカに行くことができました。実際に会うと、とてもやさしくフレンドリーな人で緊張していた私の気持ちも一瞬で晴れました。計画してくれたこともすべてが楽しくあっという間に帰る日になりました。短い期間でしたが素敵なお経験をさせていただきありがとうございました。



「アメリカに行って学んだこと」

私がアメリカで経験したことのほとんどが驚くものでありましたが、その中でも私が衝撃を覚えることが多かった場所が高校生活についてでした。

私たちが行った高校、Northgate high school で派遣団はアメリカの高校生活を体験させていただきましたが私がまず驚いたことは、Northgate high school にはクラスという概念がないことです。日本だと1年1組などとクラスに分けて授業は基本そのクラスメートと一緒に受けるのが普通ですが、アメリカではそれがなく自分の授業になると担当の教室へ行くというスタイルでした。つまり授業によってクラスメートも変わるということです。

Northgate high school では制服を着る必要がないことも驚いたことの一つです。みんなラフな姿で授業を受けているので、そんな姿は日本では考えられない、アメリカならではと感じました。他にも発展したICT授業、みんなが積極的に授業を受けている様子は私たちも見習っていくべきものとも感じました。

アメリカの文化で他に驚いたことは食文化でした。アメリカと言えばやはり大きなハンバーガーだと思いますがアメリカで食べたハンバーガーは私の想像を大きく超えました。まずカリフォルニアで有名なハンバーガーチェーン店だと、ハンバーガーのサイズを比べます。一番小さいサイズでも日本のビッグマックよりも大きいサイズだったりとボリューミーで驚きました。また、パンズにもバターがしみ込んでいますので、常に脂っこい!! アメリカにあるレストランはファストフードが多く、またそれらは脂っこいものが多いので滞在後半は胃がもたれてしまい、あっさりとした和食の存在が恋しかったです。アメリカの家で食べる料理は、基本ワンプレートで一つの料理をおなかがいっぱいになるまで食べるという感じだったので、日本食のような一汁三菜ではなく言わば、無汁一菜といったところでしょうか。そのような食事も良いと感じましたが、さすがに一品だけだと飽きてしまうとも感じました。野菜あまり食卓に出ないので、食卓はまさにワイルド。そんな経験から日本の食文化も良いなど思い日本の丁寧なところを大事にしていきたいと感じました。



今回の経験は私の将来の可能性を大きく広げるものとなりました。ここに書いてあること以外にも伝えたいことがたくさんある、10日間とは思えない非常に濃い体験をしました。旅行だけではわからないことが体験でき、その国の”リアル”を学べることが、ホームステイのいい点だと思います。私はこの経験から、アメリカや他の国のかずや生活についてより深く知りたくなりました。将来、グローバルに働き、人と関わるといいと思っています。このような貴重な経験をさせてくれた親やホストファミリー、派遣事業にかかわってくださった北区の方々、本当にありがとうございました。北区とウォルナットクリークの関係がより深まっていくことを願っています。

井出 薫子

「ホストファミリーの紹介」

私のホストファミリーは Yogyo 家で、明るいお母さんの Tina、ものづくりが得意なお父さん Marty、大人びた 16 歳のフレンド Maya、15 歳の Norman(犬)、人間大好きで元気な rosebud(犬)、そしてシャイだけど好奇心旺盛な Amaya(猫) と暮らしました。昨年は飛行機欠航で渡米できませんでしたが、Yogyo 家は 2 年連続でホストファミリーになってくださいました。私は食物アレルギーがあるため不安でしたが、Maya も同じ体質で、ご両親は理解が深く安心して食事を取ることができました。少食な私に Tina が外食時シェアしてくれたり、東京は夜も電柱などで明るいので真っ暗だと寝れず、ライトをつけて寝ている事に気づいた Marty が足元にもライトを設置してくれたりと、家族の温かさに支えられました。

「挑戦なくして前進なし」

私は高校 3 年間、このプロジェクトに挑戦し続けました。自信がなく、すぐに諦めてしまう自分を変えたい。親元を離れて海外に出ることが、きっと私を成長させてくれると信じていました。実際に渡米できたのは高校 3 年の夏。飛行機が離陸した瞬間、夢が現実になったことを実感し、涙が溢れました。心の奥底で「やっとここまで来られた」という思いがこみ上げ、不安よりも喜びが勝っていました。何事にも本気になれなかった私が、ここまで強い気持ちで挑戦し続けられたのは、このプロジェクトが初めてです。

アメリカに到着すると、初めて訪れるはずなのに、なぜか懐かしい気持ちに包まれました。きっと先輩方の報告書を何度も読んで、頭の中で何度もイメージしていたからでしょう。サンフランシスコの観光地を巡り、夏とは思えない涼しさに驚きました。海風が頬を撫でるたび、胸が高鳴り、「ついにこの場所に立っているんだ」と実感しました。

アメリカでの生活は新鮮で、すべてが学びにあふれています。サンフランシスコ観光では、坂道の多い街並みや広大な海に圧倒され、日本とは異なるスケールの大きさを感じました。週末にはマーケットで買い物を楽しみ、パーティーに連れて行ってもらい

50 人くらいの人に挨拶をしました。私も英語で自己紹介をし、拙い言葉ながら笑顔で受け止めてくれたことが嬉しかったです。

Northgate 高校での交流では、授業を体験し、日本の高校との違いを楽しみました。一番面白かったことは昼休みに何処からかミニトマトが飛んできたことです。

これまで報告書を読んでいた立場から、今回は自分が書く側になったことにも感慨があります。私は先輩の体験を読むことで不安を和らげたり、イメージを膨らませたりできたので、私の報告がこれから挑戦する団員の役に立てば嬉しいです。

滞在を通して強く感じたのは、アメリカの気候の多様さです。サンフランシスコは夏でも涼しく、海風が強いため上着が欠かせません。野球観戦をした夜は、まるで真冬のように震える寒さでした。

一方、滞在先の Walnut Creek はとても過ごしやすく、日本の夏のような蒸し暑さがありません。朝は春のように爽やかで、昼は初夏のような陽射しが降り注ぎ、夜は秋を思わせる涼しさが訪れる。まるで一日の中に四季があるようでした。気候や自然の違いを肌で感じることも、この派遣ならではの学びだったと思います。半袖、パーカー、薄めのダウンジャケットがあれば大抵の気候には対応できました。

三度目の挑戦でようやく叶った今回の経験は、私にとって「諦めずに挑戦することの大切さ」を強く実感させてくれました。もし一度目や二度目の失敗で諦めていたら、この素晴らしい体験は得られなかっただでしょう。これから挑戦する人たちには、結果がどうであれ、その過程は必ず自分の力になるということを伝えたいです。そして実際に渡米する機会を得たなら、ぜひその一瞬一瞬を大切にしてほしいと思います。

最後に、この貴重な機会を支えてくださった北区や IES の皆さん、そして 3 年間挑戦を応援し続けてくれた家族に深く感謝します。

アメリカで共に過ごした派遣生のみんな、ありがとう。学年の壁をこえて支え合い笑い合った時間は、かけがえのない青春の思い出となりました。

挑戦を続けたからこそ出会えた 10 日間は、私にとって一生の宝物です。



小野寺 隼大

「ホストファミリーの紹介」

今回の留学ではイタリア語を学ぶホストファミリーの家に滞在させていただきました。家族構成はホストフレンド、ホストマザー、ホストファザー、ホストシスターの四人でした。ホストファザーは物知りなユーモアのある人で観光地に行くたびに歴史などを教えていただき、とても勉強になりました。また、いつも笑顔で一緒に行動していてとても楽しかったです。ホストフレンドは体格が大きくて、凄みのある人でしたが、根は優しい好青年でした。学校では友達の輪に巻き込んでくれたので色々な人と交流関係を結ぶことができました。ホストマザーはいつも自分を気遣っていただき、本当にお世話になりました。アメリカについての様々な知識を教えてくれたり、料理を振る舞ってくれたりと至れり尽くせりでした。ホストシスターは大学に通っているため、あまり会うことができませんでしたが、空いている時間はショッピングに連れて行ってくれたり、食事を奢ってくれたりしました。本当に充実した 10 日間でした。本当にありがとうございました。

「ウォルナットクリーク市及びサンフランシスコの芸術」

私がアメリカに行って一番驚愕したのは、芸術です。サンフランシスコの海辺には音楽が溢れていて、時間と場所を問わず、ジャズのトランペットの音が轟いていました。ウォルナットクリーク市の街中でも同じように音楽が溢れていてとても感動しました。また、ホストマザーのお姉さんがバンドを組んでいて、実際に曲を聴かせていただきました。アメリカでは日本と違って路上でスピーカーを爆音で鳴らすため、耳栓は必須だと教えていただいたのが印象的です。私もドラムを嗜んでいる身なのでとても参考になりました。他にも海外派遣メンバーで街中を散策した際に見た美術品も思い出に残っています。トンネルのような場所にあった 4 枚の絵では、アーティストによって表現が全然違うことを体感し、知見を広めることができました。図書館前にあった平和のシンボルは、ガイドさんの話を聞いて納得した部分と納得できなかった部分があり、自分で考察してみ

ることがありました。他にも私達くらいの年齢の方々が描いた作品や、街中の全ての作品を一枚の絵にしたアートなど、面白いものが溢れていきました。学校の授業では映画の鑑賞をする授業があり、カメラのズームを駆使した表現方法や、ストーリーの見せ方、場面の順番などを学びました。また、コメディっぽさを出すための工夫や音楽、効果音の役割についても詳しく学ぶことができ、映画の見方が90°変化しました。



私はこの事業を通して様々な経験を積むことができました。英語はもちろんのこと、芸術を鑑賞して得られる新たな視点や、文化の違いなどを実際に体感することができました。また、海外派遣メンバーとも仲良くなることができ、交友関係が広がりました。英語が苦手な僕でも10日間もいれば、ネイティブな発音をある程度聞き取れるようになったので興味がある人はぜひ参加してみてください。本当に良い10日間でした。引率の方々及びホストファミリーの皆様、ありがとうございました。

刈込 結菜

「ホストファミリーの紹介」

私のホストファミリーである、Alekna familyについて紹介します。家族構成は四人で母の Carolyn さん、父の Aras さん、娘の Amelie、弟の Vincent です。そして犬の Ace と猫の Penny と Pilka を飼っています。Carolyn さんと Aras さんは明るくてどんな時でも助けてくださいました。お二人は簡単な単語を使って会話で意思疎通ができるよう、話しやすくサポートしていただいたことも多くあり、私のやりたいことや健康を第一にしてくださる優しい人です。Amelie はずっと一緒にいるからこそ大変な立場なのに常に私のサポートをしてくれて、家でも学校でもいなくてはならない存在でした。Vincent は日本の方が好きと教えてくれたおかげで日本の音楽やあいさつを伝えながら会話する時間が楽しくて元気をもらっていました。たった一週間ほどしかいなかつた私が、とにかく温かく迎え入れてくれたことがとても印象に残っています。ほんとに大好きでたまらないホストファミリーで第二の家族のような存在です。

私にとって初めての海外、楽しみもありましたが、その反面、不安もありました。ですが、この十日間のホームステイは今まで一番思い切った挑戦で、最高な思い出となりました。主に二つのことについて話していきたいと思います。一つ目は「自分から挑戦しないと何も始まらない」ということです。私がこの北区青少年交流団海外派遣事業に挑戦をしなかったら私の大好きな Alekna ファミリーにも出会えてないと考えると思い切って挑戦したこと、誇りに思います。この挑戦に踏み切るまで自分のなれない高校生活や英語の語学力、コミュニケーション能力にとても不安があり、決断しきれませんでした。そのとき、「何事も挑戦することが大切」と私の背中を押してくれたのが母です。この言葉のおかげでこの事業に応募することができました。この言葉はアメリカでの生活でも私を励ましてくれました。私がやりたいことや挑戦したいことを英語で伝えようとすることはとても勇気がいることでした。なぜなら、自分のスピーチングの能力に不安があっ

たからです。それでも自分から話さなければ今の状況は何も変わらないと思うことがで
きました。私は海外での慣れない生活の中で「失敗したらどうしよう」と何度も思ったこ
とがありました。ですが、いざ挑戦してみると間違っていても丁寧にやり方を教えてくれ
たり、励ますために声をかけてくれたりしました。ときには、「失敗することも大切」、これ
が二つ目です。こんなに不慣れな私をアメリカで助けてくれたのはホストファミリーや北
区の方、IES の方、海外派遣で出会えた仲間たちがいたおかげです。さらにそれを援
助してくれた家族にも心から感謝しています。私がこの事業に参加した理由は自分の
足で現地に立って自分の持っている価値観の殻を破り広い世界を見たかったからです。
実際にアメリカに行ってみると私が出会えた人たちはオープンな性格をしていて自分を
持っている人たちばかりでした。その姿を見て尊敬と憧れでいっぱいになっています。将
来、私が大人になった時このような自分を持っている人になりたいです。そして英語ス
キルの未熟さを痛感しました。だからこそ、英語スキルをより高めていきたいです。英語
で会話をスムーズにできるようにすることが私の最終目標です。貴重な経験を本当に
ありがとうございました。



川本 恭輔

「ホストファミリーの紹介」

僕は Bader 家にお世話になりました。Bader 家だけが今回唯一日本に何も関係がない家でしたが日本に興味があり日本の話などもして楽しい時間を過ごすことができました。五人家族で、15.20.23 歳の三人兄弟全員ポケモンが大好きなので、ポケモンのグッズをお土産として買っていけばよかったと後悔しました(笑)。特に、夜いきなり次男にバーガー屋に行こうと誘われて兄弟と一緒に夜バーガーを食べたのは、日本で体験しないようなことでとても新鮮でいい思い出になりました。家が大きくて今回のプログラムの日程では到底遊び尽くすことができませんでした。お母さんやお父さんも優しくて、常に僕のことを気にかけてくれたのでとても感謝しています。アメリカの家族の特徴かもしれませんのが、お互いを尊重して信頼しているのがよくわかりました。家族の仲や雰囲気が良くて、アットホームな環境で、まるで家族の一員のように過ごせたことをとても嬉しく思います。

「手に入れられた宝物」

僕は、このプログラムの大きな特徴の一つはアメリカの現地の高校でホストブラザーと授業を受けられることだと思います。もちろん現地の高校生と交流する機会もたくさんあって、ホストファミリーと違って遠慮のないスピードで会話が飛び交うのでついていくのに最初は苦労しましたが、段々その中になじむことができました。そこでわかったのは日本で学習した英語が意外と通じるということです。最初は文法や単語の正確性ばかり気にしてなかなか話す勇気がなかったけれど、いざ話してみるとほぼ不自由なくコミュニケーションをすることことができたので、今後の英語学習のモチベーションにもなりました。

また、たくさんの現地の高校生と友達になることができました。僕のホストブラザーにたくさんの友達がいて、廊下ですれ違った友達に次々と紹介されていきました(笑)。

皆ポケモン、アニメが好きで、あのアニメは知っているかなど話が盛り上がりすぐに仲良くなることができました。最終日の夜にはみんなでホストファミリーの家に集まってくれて同じ時間を過ごすことができました。ホストファミリーや友達が今後日本に来るのを、その後も関係を絶やさずにいれたらいいなと思います。これらは実際にアメリカに行かないと体験できないことであり、このことからもこのプログラムが非常に有意義だったと思います。

また、アメリカに行って、将来やりたいことが固まったように感じました。僕は整形外科医になってアスリートを診たく、このプログラムに参加する前まではアメリカで働くという選択肢は全く頭になかったのですが、今回貴重な縁などもあり、アメリカで働きたいと強く思うようになりました。辛い時があってもこの体験を思い出して精一杯勉強したいと思います。

最後に、一緒にこのプログラムに参加した高校生のみんなとも仲良くなることができて、このメンバーでアメリカに向けてたくさんのいい思い出を作れてとても楽しかったです。このプログラムの一員としてアメリカに行けたことを誇りに思います。特別な体験をすることができました。



小林 優花

「ホストファミリーの紹介」

まず、私を受け入れてくださった Baluta 家をご紹介いたします。Maja・Edward 夫妻、Hannah・Alex の 4 人家族です。お母さんの Maja は明るく家庭的で、料理がとても上手な方です。買い物や学校への送迎もしてくださり、常に気配りのある優しい方でした。お父さんの Edward は知識が豊富でユーモアにあふれ、会話を通してアメリカの文化や考え方をたくさん教えてくださいました。Hannah は私より 2 歳年下でしたが、学校生活を共に過ごし、授業や友人との交流を助けてくれる頼もしい存在でした。弟の Alex は少し照れ屋でしたが音楽が得意で、ピアノやドラムを演奏してくれたり、私にリズムを教えてくれたりしました。最初は緊張していた私も、この家族の温かさに支えられ、安心して生活できました。彼らと過ごした時間は、かけがえのない思い出となりました。

「アメリカのリアルに触れて」

この 10 日間は、観光や学校体験を通して日本との違いを強く感じ、リアルなアメリカに触れる貴重な時間となりました。到着直後にはフィッシャーマンズワーフやゴールデンゲートブリッジを訪れ、街の規模やホテルの大きさに圧倒されました。翌日からはホストファミリーと一緒に生活を共にし、サンドイッチや湖でのカヌー、満天の星空、グリルで焼いたハンバーガーなど、日本ではできない体験を数多く重ねました。自然の壮大さや食文化の違いに驚きながらも、家族の温かいもてなしに安心感を覚えました。

ノースゲート高校では、移動式の授業スタイルやスマホ禁止、クロームブックの使用といった特徴に驚きました。数学や英語、ヨガ、世界史など幅広い授業を体験し、英語に苦戦しながらも先生や友人の助けを得て学ぶ楽しさを実感しました。また、昼食を自由に取れる環境や生徒の自由なファッショントレンド、講義よりもディスカッション中心の授業形態など、日本との違いを感じました。さらに、町中にアートが点在するウォルナットクリ

ーク市のツアーや警察署見学も刺激的で、その地域文化の豊かさを深く知ることができました。

この滞在で学んだことは、言語や文化の違いを越えて人とつながる温かさ、そして挑戦する勇気の大切さです。将来はさらに英語を上達させ、再びアメリカを訪れて、より深い交流を重ねたいと強く思いました。今回の経験は私の宝物であり、これから的人生を支える大きな力になると確信しています。

最後に、今回の北区青少年交流団海外派遣事業に参加するにあたり、聴覚障害のある私を受け入れてください、誠にありがとうございました。この事業に聴覚障害者が参加するのは初めてとのことで、私自身も大きな不安と緊張を抱えていました。しかし、ホストファミリーや北区青少年交流団、そして引率してくださった方々が、常に優しく、わかりやすく対応してくださったおかげで、安心して過ごすことができ、素晴らしい 10 日間となりました。心より感謝申し上げます。



塩崎 奈穂

「ホストファミリーの紹介」

私のホストファミリーである Lange ファミリーはお父さんのショーンさん、お母さんのまさよさん、ホストフレンドのアリーナ(15)、サーシャ(11)、ノア(5)としば犬のトロです。まさよさんが日本人なこともあります、ご家族の全員が日本語を話せるため、日本で話す機会が多くなりました。ですが英語で話す時間も取ってください、ちょっとした言い回しや、受け答えの仕方を教えてくださいました。最初はリビングに行きにくく感じていましたが、ノアとトロが部屋を訪ねてくれて、そこから一緒に遊ぶようになり、みんなと仲良くなりました。私は小さい子が大好きでノアにずっと構ってもらいました。最終日はずっと泣いて悲しんでいたら、ノアが長めにハグしてくれました。ノアの可愛さにメロメロの 10 日間でした。まさよさんと一緒にいる機会が多く、日本のことだったり、恋バナをしたり、恐れ多いですがお友達のような感覚でした。ホームステイをするのが初めてだったので色々と不安なことがありましたが、Lange ファミリーにとても暖かく迎え入れて頂き、本当に Lange ファミリーに受け入れていただいてよかったです。一生の思い出になりました。受け入れてください本当にありがとうございました。



「ノースゲート高校での日々」

ノースゲート高校で過ごした4日間について書きたいと思います。基本ホストフレンドであるアリーナの授業と一緒に受ける形でした。

ノースゲート高校でできた友達について話します。日本と関わりの多い子と仲良くなる機会がありました。アリーナの幼馴染の島りお君という日本人ハーフの男の子と仲良くなりました。りお君は生徒会長で、最初はお互い緊張して話せませんでしたが、放課後に一緒に遊んだりするうちに仲良くなりました。私はコミュニケーションを取るのが得意ではありませんが、りお君のフレンドリーさにいつの間にか不安だったことを忘れて楽しむことができました。



もう一人、黒田さくらさんという友達もできました。さくらさんはアリーナが体調不良で休んだ日に授業に入ってくれた女の子です。さくらさんは急遽一緒に回ることになっても快く受け入れてくれ、ランチと一緒に食べ、分からぬことを優しく教えてくれました。一緒に過ごす時間は少なかったですが、フェアウェルパーティの際、部活があるのにも関わらず来てくれて最後に会うことができました。人の優しさにたくさん触れることができました。

アメリカの授業についてです。日本のように一曜日ごとの時間割ではなく、火木、月水金の2通りのみあります。また授業の種類も多く、日本は基本大学受験を見越した

授業科目が多いイメージがありますが、アメリカでは人生において必要な技能だったり社会に出た時に必要なスキルを得られたりする授業が多かったです。例えば、スポーツメディカルといって怪我をした時の応急処置を学ぶ授業、AP セミナーといってエッセーやディベートを中心にする授業などがあります。使う生徒によっても内容に差があり、座学の多い生徒や実践が多い生徒もいます。

最後に私は将来小学校の教師になりたいと思っています。私は高校では英語部に所属し、多くの海外の人と会ったり、ホームステイで受け入れたりした経験もありますが、常に海外の人を迎える側で、マイノリティ側になる機会はありませんでした。今回、4日間ノースゲート高校に通いましたが、そこでは英語を話す人の中に言語の違う私がマイノリティ側として過ごし、心細さ、気持ちを伝えることの難しさ、肩身の狭さ、疎外感を実践しました。ドイツ語の授業を受けている際、先生がとてもフレンドリーな方で自然と授業に入れ、話しかけてくださったおかげで楽しく面白く過ごすことができました。今回の経験を将来に生かし、マイノリティ側になった時の気持ち、また教師の対応により児童の感じ方が変わることを忘れずに、アプローチし続けることのできる教師になりたいと思いました。

最後にこのような機会を与えてくださった私の両親、北区役所の方々、Lange ファミリー、旅行会社の方々、そしてすべての関係者の方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。



下村 悠太郎

「ホストファミリーの紹介」

今回の Walnut Creek 滞在で、温かく迎えてくれたホストファミリーを紹介します。

Chu 家は 5 人家族で、父 Looney、母 Kate、14 歳の双子 Lucas と Casey、そして 11 歳の弟 Sam、さらに 2 匹の犬と暮らしています。Looney さんの両親が台湾出身で、僕自身も台湾に住んでいた経験があるため、台湾の好きな食べ物や台湾でどんな生活を送っていたかなどを語り合うことができました。Lucas と Casey はマーチングバンドに参加していて、滞在中に彼らのライブを観る機会もありました。二人は理系科目とゲームが得意で、特に数学では群を抜いていました。Sam は Roblox に夢中で、Casey とはネットの流行ネタで盛り上りました。Kate さんは夜勤が多く不在がちでしたが、朝食にベーグルを作ってくれる優しい方でした。家にはピアノとプールがあり、演奏を聴いたり一緒に泳いだりもしました。帰国前夜には学校の友人たちとキャンプファイヤーも楽しめ、忘れがたい思い出となりました。

「オリジナリティ」

今回の海外研修は、これまで自分が経験してきた海外旅行や短期留学と比較しても特に印象深いものとなった。台湾人の父とアメリカ人の母を持つホストファミリーに受け入れてもらい、現地の学校ではアジア系アメリカ人や中国・日本ミックスの友人たちと多く交流する機会があった。その中で自分が強く感じたことをいくつか紹介したい。

まず一つ目は、「将来は自分次第」という意識が日本以上に強く根付いていることだ。Northgate 高校では、最終授業は午後 4 時頃に終わるが、ホームルーム(HR)はなく、そのまま帰宅する生徒もいれば、バンドやバスケなどの部活動に参加する生徒もいる。課題の殆どは PC で提出するため、家で取り組むのが一般的であり、時間の使い方は完全に個人の裁量に委ねられている。特に印象的だったのは、日本人とアメリカ人のハ

ーフである友人との交流だ。彼の見た目は日本人のようだが、茶色のカーリーへアを持ち、ロックなファッションで通学しバンド活動に熱中していた。彼のようなスタイルや価値観は、日本の高校では受け入れられにくいかもしれないが、アメリカでは外見や考え方に関係なく、自分自身を自由に表現できる環境が整っていると実感した。

次に感じたのは、「On と Off のメリハリ」がはっきりしていることだ。Northgate 高校では、すべての授業で教科書やノートを持って教室を移動するスタイル。放課後に課題に取り組むか、趣味に没頭するかは自分次第。課題の提出が遅れれば成績に影響する一方で、勉強以外の活動、例えば自然とのふれあいや課外活動を通じて社会の成り立ちを理解すること、なども人生には重要だと感じた。滞在中は、ホストブラザーとの会話から多くのことを学んだ。通学中や夕食の時間など、日常の中で話題が次々と変わり、彼らは「やるときはやる、休むときは休む」という切り替えがナチュラルに出来ていた。ある時はネットのミームについて語り合い、ある時はオリジナルのゲームで遊び、課題が終わった後には PS5 と一緒に楽しんだ。自分たちの中でしっかりと線引きができる印象だった。尚、他にもホストファミリーの庭でキャンプファイヤーを楽しんだり、MLB の試合観戦に行ったり、パスタを作ってもらったり、と楽しい思い出をたくさん作つてもらえた。

さらに、先生との距離感にも驚いた。先生は「課題を出す、評価する」という役割に徹しており、それ以外は生徒と同じ目線で接してくれる存在だった。形式的な上下関係ではなく、対等な人間としての関係性が築かれているように感じた。

この研修を通して、世界の広さと多様性を肌で感じることができた。将来に向けて、もっと多くのことに挑戦したいという気持ちが強くなった。アメリカの同世代の子たちの価値観や生活スタイルを知ることができたのは貴重な経験だった。この様な機会を与えてくれたことを心から感謝したい。



関口 晃輔

「ホストファミリーの紹介」

今回、私は北区青少年交流団海外派遣の団員として、8月16日から23日の期間、アメリカ・カリフォルニア州のウォルナットクリーク市にあるDelaney家でホームステイをさせていただきました。

ホストファザーのLawrenceさんは小学校の先生で、サッカーやギターを楽しむユーモア溢れる方です。イギリス・ウェールズ出身の方で独特のアクセントがあると思っていましたが、実際にはとても聞き取りやすく、会話がスムーズに進んだため安心しました。

ホストマザーのPamさんは、大変優しく、学校への送迎など様々なサポートをしてくださいました。

また、ホストフレンドのRhysさんは、とてもフレンドリーでした。学校生活に不安を感じていた私に多くの友達を紹介してくれたおかげで、楽しく過ごすことができました。

ホストシスターのGwynethさんは、サンリオが大好きで日本から持参したサンリオのお土産をとても喜んでくれたことが嬉しかったです。

さらに、Rhysさんのおばあさまであるtakakoさんは日本人で、家庭内のルールなどを日本語で教えてくださり、大変心強く感じました。

このように、ホストファミリーの皆さんのが温かく親切に接してくださったおかげで、滞在中は毎日が楽しく充実していました。初めての環境でも安心して過ごせたのは、Delaney家の皆様の心からのおもてなしがあったからです。温かく迎え入れてくださった皆様に、深く感謝申し上げます。



「忘れられない10日間」

本プログラムを通じ、私は初めてアメリカに留学しました。高校入学後、多くの友人が長期留学で充実した時間を過ごす姿に刺激を受け、私も海外経験を積みたいと思い参加しました。アメリカに行く直前までは、初めての長時間フライトに少し不安もありましたが、これから始まる生活への高揚感で満たされていました。

初日は、サンフランシスコに着いた後、バスでゴールデン・ゲート・ブリッジや PIER39 を巡りました。ゴールデン・ゲート・ブリッジは、うっすらと霧がかかって中から赤い橋が姿を現す様子が幻想的で、写真で見た以上の迫力に思わず息をのみました。また、そこからは映画で見たアルカトラズ島も見えました。その景色を見て、自分が本当に海外に来たんだという実感が湧いてきました。PIER39 は、観光地らしい活気に満ちた場所でした。飛行機の都合で滞在時間がわずか 10 分しかなく、バスを降りて走り、アシカを見に行ったのが良い思い出です。

2 日目以降は、ホームステイとなっておりこの日はホストファミリーと初めて顔を合わせる日でした。初めてのホームステイということもあり、英語で会話できるか不安と緊張で胸がいっぱいでしたが、ホストファザーとホストブラザーが私を見つけると、笑顔で手を振って迎えてくれました。その温かい仕草で緊張が解け、これから始まるホームステイが楽しみになりました。

初めて一緒に過ごした日は、Rhys と Gwyneth と近くのスーパーやプールに行き、遊びながら少しずつ打ち解けていきました。さらにその夜、私が野球が好きだと知っていたホストファミリーが、MLB の試合に連れて行ってくれました。私たちが行ったサンフランシスコジャイアンツの本拠地であるオラクルパークは日本の球場とは違い、観客の熱気とスケール感に圧倒されました。しかし、海に隣接する球場のため日が暮れると一気に気温が下がり、風も強くとても寒く感じたことも印象的です。

3 日目は、Muir Woods National Monument を訪れました。樹齢数百年、高さ

60m を超えるレッドウッドの巨木が立ち並ぶ遊歩道を歩きました。スター・ウォーズの「エンドアの森」の撮影は近くのレッドウッドの森で行われており、散策していると、まるで自分がスター・ウォーズの世界に迷い込んだような気分でした。頭上高くそびえるレッドウッドの巨木や薄暗い中に差し込む光が映画の世界と重なり、イウォークたちがどこから現れそうな想像をしてわくわくしました。実際には撮影地ではないとわかっていっても、映画のシーンが目の前によみがえるような忘れがたいひとときでした。その後も、ビーチや、ゴールデン・ゲート・ブリッジなどの観光名所を案内してもらいました。

4、6、7、8日目は、現地のノースゲート高校に通いました。外国の学校で友達が出来るか心配でしたが Rhys さんが多くの人に私を紹介してくれたおかげで、色々な人と話すことができました。中には、日本に来たことがある人やアニメが好きな人もいて、とても楽しい学校生活を送りました。特にスポーツ医学の授業は日本の高校にはないもので大変興味深かったです。

5 日目は今回のメインイベントであるスピーチ発表の日でした。午前中はウォルナットクリーク市のパブリックアートを巡りました。どれも独自の魅力がありました。中でも右の写真の「牛が犬を連れている銅像」が一番のお気に入りです。そのユニークな姿に惹かれてしまいました。午後のスピーチ本番では緊張しましたが、練習を思い出し落ち着いて話せました。

9 日目は、とうとうホストファミリーとのお別れの日でした。ホストファミリーとの時間があっという間に過ぎ去り、胸がぎゅっと締めつけられるような寂しさを感じました。最後には、今度来た時にはラスベガスやロサンゼルスと一緒に旅行しようという楽しい約束までしました。再会を心から楽しみにしながら、温かい思い出とともに別れを惜しました。



今回の留学を通じて、私は異なる文化の中で自分の考えを伝える力と、相手の価値観を尊重しながら柔軟に対応する視点を身につけることができました。言語や生活習慣の違いに戸惑う場面もありましたが、その一つ一つが成長のきっかけとなり、自らを成長させる大きな経験となりました。この経験で培った語学力と柔軟な発想は、これから学問や将来の挑戦に生かせる、かけがえのない財産になると確信しています。

この貴重な機会を支えてくれた家族、そして派遣計画や手続き、現地でのご支援にご尽力くださった北区や IES の皆様に心より深く感謝申し上げます。



田渕 海翔

「ホストファミリーの紹介」

私がお世話になったホストファミリーは 14 歳の Aiden、エイデンの妹 10 歳の Enya、母の Lily さん、ラブ ラドールレトリバーの Farsi の家族でした。エイデンは NorthGate 高校の一年生で私よりも年下でしたが大人っぽい雰囲気でした。毎朝リリーさんが私とエイデンを学校まで送迎してくれとても助かりました。エイデンの趣味はサッカーやポケモンのゲームをすることで、私も一緒に「ポケモン GO」をして楽しみました。エイデンは時速 60 キロも出せる電動バイクを持っており「これが僕の宝物だよ。」と教えてくれました。家族皆が、日本が好きだと話してくれ、寿司が大好物の私をわざわざ「アメリカの寿司レストラン」に連れて行ってくれたり、私のことを色々と気遣ってくれたことがとても嬉しかったです。近いうちに家族で、日本に来てくれる。とのことでした。私も必ずまた Aiden 家族に会いたい!と思っています。



「短期留学感想」

私はこの海外派遣プログラムで「自然」や「学校・教育制度の違い」を探求し、お互いの国の良いところを見つけることを目標として参加しました。実際に知ったこと、感じ

たことを述べたいと思います。

まず、自然環境についてですが、ウォルナットクリーク市は一年を通し気温の変化が少なく平均気温は 20 度くらいで滞在中も大変過ごしやすかったです。エイデンによる夏の間は雨が降らない「地中海性気候」とのことでした。さらに日本と比較し位置が高緯度であるため日照時間が長く、私がエイデンと遊びから帰宅したのは午後 8 時頃でしたが、まだ太陽は沈んでおらず、その自然の環境の差に非常に驚きました。

この写真は私がステイ先の近くで撮影した景色ですがウォルナットクリーク市は標高が海拔 200 メートルほどで高地に位置していました。

私の住む北区は平坦な土地が多いのに対し、ウォルナットクリーク市は坂が多く高低差があったのが印象的でした。また、サンフランシスコ観光をした際に驚いたことは、坂道に駐車している車が多くタイヤをわざと横にし車が動かないようにしていることが印象深かったです。さらに北区と比較し道路幅が広かったのも広大な土地ならではだと感じました。

ウォルナットクリーク市は山が多く牛が放牧されている風景をよく見ました。牛は山に生えている麦のようなものを食べていましたが、山の周りには背の高い植物はありませんでした。動物について印象的だったのは、ホストの家で卵を採るために飼っていたニワトリ、高校で見たリス、鹿、鶴、鳩、そして、サンフランシスコの有名な観光スポットであるフィッシャーマンズワーフにいたアザラシです。昆虫類は発見できなかったのは少し意外でした。



つぎに学校や教育について感じた違いを 2 点話します。

一つ目は時間割です。日本の高校では多くは六限制の授業に加え昼休みという時程で構成されていますが、現地では二限目と三限目の間に 20 分間「ランチタイム」という軽食を取ることができる休み時間がありました。また生徒であれば無料で食べることができるカフェテリアが常設されており、羨ましいと思いました。二つ目はアメリカの高校生は積極的に授業に参加し、学習意欲がとてもあるということには尊敬の気持ちを感じました。日本では生徒はあまり挙手はせず、先生が生徒を名指しする場合がほとんどです。一方、アメリカでは先生が何か質問すると沢山の生徒が一斉に挙手をしていました。間違えたら恥ずかしい。という後ろ向きの考え方はないようでアメリカと日本の高校生の考え方の違いを知りとても勉強になりました。私もアメリカの生徒のような積極的な学習スタイルを実践していくべきだと思いました。

私はこの北区海外派遣プログラムに参加させてもらい他では体験できないような事をたくさんさせてもらいました。特に現地校である North Gate 高校で生徒として授業に参加するという経験ができたことで自分の視野を広げ、沢山の知見を得ることができました。今後はこの経験を活かして頑張っていきたいと思います。

最後に私を受け入れてくれたエイデン家族、一緒にこのプログラムに参加した北区の仲間たち、引率をしてくださった北区役所や IES の職員の皆さんに感謝申し上げます。

近間 袴音

「ホストファミリーの紹介」

私は Balistreri 家に 10 日間ホームステイしました。メンバーは、底抜けの明るさをもつ父、常に笑顔で優しい母、そして少しお茶目で元気なエラの 3 人家族でした。Balistreri 家はみんな日本文化に興味があり、特に父は相撲、母は寿司や納豆などの日本食、エラはエヴァンゲリオンなどの日本のアニメが大好きでした。日本人である私を温かく歓迎してくれ、日本について興味津々に次から次へと質問をしてくれる Balistreri 家にすぐに溶け込むことができました。

また、父が元シェフということもあり、家の庭には大きなピザ窯がありました。毎日美味しい料理を作ってくれ、日本食から離れた 10 日間、飽きずにジャンキーフードを楽しめました。家に友達を招待して父が生地からピザを作ってくれ、みんなでパーティーをしたことが 1 番の思い出です。

「国境を越えたつながり」

私は 2 年前にも北区立学校生徒海外交流事業の派遣団員として今回と同じくウォルナットクリーク市を訪問しました。サンフランシスコ空港に到着して、目の前に広がる懐かしい景色に感動すると共に、また来れたんだという爽快感で自然と笑顔になりました。私はこの 10 日間で数え切れないほどたくさんの素敵な場所に連れて行ってもらい、たくさんの人と交流し、外国の人の温かさを様々な場面で感じることができました。また、アメリカ人のフレンドリーなキャラクターにも元気をもらい、さらに外国人人と関わることが大好きになりました。

その中でも 1 番印象に残っているのは、日本人の友達とウォルナットクリーク市のダウンタウンの視察で訪れたタピオカ屋の店員さんとの交流です。私たちがお店に入りメニューを見ていると突然店員さんが、「あなた達は日本の留学生?私も何年か前に交換留学生として日本人を受け入れたの!」と英語でとても嬉しそうに話しかけてきました。

彼女は続けて、「その時のパートナーの日本人留学生のおかげで私は日本が大好きになったのよ。あなたたち日本人留学生がこの店に来てくれてとても嬉しいわ!」と言い、私たち日本人留学生 5 人分のタピオカを無料で提供してくれました。私はこの出来事を通して、過去に彼女のパートナーであった日本人留学生の行動が、次の世代へと今の私たちへ受け継がれているのだと感じました。日本人の印象がアメリカの人々にとつていいのは、必ず過去に、彼らにとって日本人の印象が良くなるきっかけとなる架け橋となった人物がいて、その人の行動が次の世代へと受け継がれて、人々はつながっていくことを実感しました。

また、私がこのホームステイ中に通っていたノースゲート高校には日本のハーフである学生が何人かいいました。彼らは率先して私たちに案内をしてくれたり、現地の学生と私たちがうまくコミュニケーションをとれるよう手助けをしてくれたりと彼らの温かさに何度も救われました。その友達のうちの 1 人であるバレー部が得意な男の子が、私と初めて会ったその瞬間から、フレンドリーに話しかけてくれ、私もバレー部であることから、その日の夜に彼がいつも通うクラブチームのような場所へ連れて行ってくれ、たくさんの初対面のプレーヤーとバレーをし、最高の思い出を作ることができました。

この留学中に現地で私たちを案内してくれた人や、明るくフレンドリーに接して私たちを楽しませてくれた人のように、私自身もこれから、将来の夢である、日本人と外国の人が繋がりを持つための架け橋となれる存在の通訳ガイドになりたいという気持ちがさらに大きくなりました。これからも多くの経験を重ね、将来のグローバルな社会で活躍できるよう精一杯頑張ります。

今回このように素晴らしい経験をサポートしてくださった全ての方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。



鶴田 紗希子

「ホストファミリーの紹介」

私のホストファミリーはものすごく暖かい人たちでした。私を受け入れてくれたのは Stong ファミリーでお母さんの Allison とパートナーの Justin、長女の Madyson、次女の Juliet、三女の Charlotte、長男の Brandon と次男の Tyler と犬の Pilot がいました。沢山人がいるにぎやかな家族でした。主に一緒に行動したのは長女の Madyson でめっちゃかわいくて、親切で、コミュ力高くて太陽みたいな女の子でした。本当に面倒見のいいお姉ちゃんで、私より年下なのに色々助けてくれてすごくありがとうございました。Justin は料理がとても上手で、出てくるご飯が毎回おいしかったです。家族みんな食べることが好きだったので、たくさんスーパーに連れて行ってもらいました。そのせいか、日本に戻った時には体重が 1kg も増えていました。Allison はすごく優しい人だったのですが調べてみたらものすごく優秀な人でかっこよかったです。妹ちゃんと出かけたときは一緒にしゃいでへとへとになりました。Boys と関わる機会は多くなかったのですが、二人とも親切してくれて嬉しかったです。本当に素敵なお人々と出会えて幸せです。

「アメリカでの思い出」

最初にサンフランシスコに到着したとき、映画の中でしか見たことのなかった世界に初めて足を踏み入れたような気持ちになりとても感動しました。洋画が好きな私にとってアメリカは憧れの都市で、そこで生活できるというのは夢のようなことでした。そんな今回の派遣で特に思い出に残っているのは Northgate High School に実際に通ったことです。高校生活を描いたアメリカのミュージカルが大好きで繰り返しそれを見ていたので、実際に高校を訪れたとき、そのミュージカルとほとんど変わりのない高校の様子にとても衝撃を受けたことを覚えています。ちょうど滞在期間中に学校内での選挙のようなものとイベントがあったので、よりアメリカの高校を感じられてとても楽しかった

です。一緒に参加した授業に Sports medical という授業があって、実際に包帯を巻く練習をさせてもらえたのは貴重な体験でした。授業の幅がすごく広くて、日本の高校にはないような授業もあったので驚きました。また校舎のサイズも広くて慣れるまでは迷子になりそうだと感じました。

またサンフランシスコで体験したこと一番楽しかったのは、屋外で映画を見たことです。ホストファミリーに連れて行ってもらいました。車を駐車してそこから音を流しながら大きなスクリーンで見る形式ですごく新鮮でした。映画を見ている途中に何回か流れ星も見えてとても嬉しかったです。ポップコーンなどのお菓子を買いすぎて、食べきれなかったのでその分は学校におやつとして持っていました。

他にホストファミリーとやったことで楽しかったのは、スーパーマーケット巡りです。Target をはじめとする数々のスーパーに連れて行ってもらいました。その中でも規格外の大きさだったスーパーマーケットは Costco です。日本にある店舗も相当大きいとは思いますが、アメリカはどこかの食品工場に間違えて入ったと感じてしまうぐらいのサイズ感でした。面積も広いのですが、天井までの距離がすごくて一番上にある商品は脚立を使って届かないぐらいです。どうやって荷物をそこまで乗せたのかがひたすら謎でした。Trader Joe's に行ったときにはかわいいデザインのエコバッグをプレゼントしてもらい、Farm market に出かけたときは大きなポップコーンをみんなで買って食べました。スーパーマーケット巡りは本当に楽しかったです。この 10 日間を通してたくさん思い出を作ることができました。

最後に、この素敵な体験を作ってくださった北区の職員さんや IES の方々、ホストファミリーやノースゲート高校の方に感謝を伝えたいです。本当にありがとうございました。今回の体験で得たたくさんの学びを将来生かしていくべきだと思います。今回新しく増えた友達と近いうちにまた会いたいです。



徳永 篤志

「ホストファミリーの紹介」

私が 10 日間お世話になったホストファミリーの Leibowitz 家を紹介します。

Leibowitz 家はお母さんの Suzanne、お父さんの Josh、16 歳の Jack、14 歳の Shayna、11 歳の Judah の 3 人兄弟の 5 人家族に加えて、可愛い犬の Johnny がいるお家でした。

Leibowitz 家の三人兄弟は全員日本語学校に通った経験があり、Shayna は今も通っていました。全員日本語で自己紹介ができ、彼らが車や家の中で日本語を話す時は、とても盛り上がり、皆が笑顔になりました。

「かけがえのない日々」

まず Leibowitz 家の人達と対面し、その後お家に向かいました。家は 1 階建てなのですが 1 部屋 1 部屋がとても大きく、庭もとても大きく、過ごしやすかったです。着いてすぐホストファミリーと庭で遊んだり、Nintendo Switch でマリオカートをしたりしました。その後、私が今回の派遣で特に楽しみにしていた野球観戦に行きました。人生初の MLB の試合観戦を、大の野球好きの私は本当に楽しみにしていました。オラクルパークに向かう途中の車で終始ワクワクが止まりませんでした。そして念願の MLB 観戦はとても印象に残りました。オラクルパークは海に面しており、外野には巨大なコカ・コーラの瓶と野球グラブのオブジェがありました。夜になりライトアップされた景色はとても綺麗でした。オラクルパークに野球観戦に行けたことは、今後の私の人生においてとても貴重な経験であり、夜の壮大な景色は忘れる事はないだろうと思いました。

また、その数日後、私は現地で 17 歳の誕生日を迎えるました。この日はノースゲート高校で授業を受け、その後 Leibowitz 家で誕生日パーティーをしてもらいました。皆でご飯を食べ、誕生日プレゼントを貰いました。この誕生日プレゼントは、今までの人生の中でも格別だったと、改めて思います。なんと大谷翔平選手のユニフォームを頂きまし

た!その日は嬉しすぎるあまり、ずっと大谷選手のユニフォームを身につけて過ごしていました。更に2日後、今回の派遣団の川本君が誕生日を迎えたということで、彼のホストフレンドのお家で遊びました。そこでも誕生日プレゼントを貰ったのですが、現地で食べた有名なチェーン店のインアンドアウトバーガーのTシャツに、スパイダーマンのネムタグなど、多くのプレゼントを頂きとても嬉しかったです。

多くの誕生日プレゼントやお祝いの言葉を通して、現地の人達はとても優しく、私の会話を楽しんでくれると深く感じ、渡米する前の不安は杞憂だったんだだと改めて嬉しく感じました。

また、ノースゲート高校で数日間ホストフレンドと登校し、一緒に授業を受けて学校生活を過ごす中で、様々な気づきがありました。

教室によって机の配置が違っていたり、自習メインの授業もあれば先生が講義を主に進めていく授業もあったりと、様々な授業形態があってとても興味深く感じました。また、私の学校の普段の授業と違って生徒が自主的に先生に質問をしている機会を多く見ました。これらの事からアメリカの学生は自動的に学ぼうとする姿勢が強いと感じ、先生も自主性を尊重していると感じました。

今回の派遣を通して、海外に行くことへの興味がとても増し、今後の私の選択肢を広げることが出来たと深く感じました。今回このような素晴らしい事業を企画、サポートしてくれた方々には感謝しかありません。改めてこの場で感謝を伝えたいと思います。



渡辺 碧

「ホストファミリーの紹介」

私がホームステイさせていただいたウォーレンさん一家はアメリカ人のお父さん、日本人のお母さん、15歳のモニカと13歳のジアーナの姉妹、約50kgの大型セラピー犬のエルトンの四人と一匹の家族でした。

アメリカの家は一軒一軒がとても大きく、ホストファミリーの家の庭には鶏小屋やバーベキューセットがあり、ミニトマトやリンゴなどを自家用栽培していました。家で育てた食材を使い、夜は庭でバーベキューをご馳走になり、またみんなで大きなテレビで映画を楽しみました。

ホストファミリーはすごくアクティブで、ジアーナはテニス、モニカは水泳、水球をやっています。私はホームステイ中にモニカの水泳チームの練習に参加させてもらいました。またエルトンのドッグランにホストマザーと行ったり、家のガレージに卓球台を出して卓球をしたりしました。車移動が普通で、学校や習い事のお迎えなどとても忙しそうで、たまに近所に住むホストグランパも手伝ってくれていました。月に一回、予定表を家族みんなで確認し会議していると聞き、日本に帰国後にその会議の写真を送ってくれました。

それぞれのコミュニケーション力がすごく、どんどん話しかけてサポートしてくれるのと、困っていることもすぐにどうにかなり、たくさんのが吸收でき、深く良い仲を作りました。ホストファミリーの方々のおかげで最高の思い出をつくることができました！

「未来を見据える視野へ」

幼いころから海外に行ってきましたが、自分一人だけで家族がついてこないことにとても不安があったとともに、行きたいと思っていたホームステイに行けることにわくわくしていました。

この十日間ホストファミリーだけでなく、北区の派遣の人たちやウォルナットクリークの地元の同世代の人たちなどとたくさん交流できました。

簡単に私の 10 日間をまとめようと思います。

1 日目はホテルに泊まり、北区の派遣生たちと一室に集まりたくさん話をしました。連絡先を交換し、写真を共有し、たくさん話したことで距離がとても縮みました。

2 日目はホストファミリーとの顔合わせで、会うことをとても楽しみにしていました。ホストマザーとはアメリカに訪れる前に何回も連絡を取っていました。ホストフレンドはホストマザーから話を聞くだけで直接連絡は取ったことはなく仲良くなれるか心配でした。移動の車の中でモニカやジアーナが積極的に話してくれ、わからない単語があった場合にはホストマザーがわかりやすくしてくれるなど心配だったことがすぐになくなりました。ホストファミリーの家につくとホストファザーが迎え入れてくれました。その後、モニカおすすめの水着を買いに行ったり、野球の試合を見に行ったりしました。この日の昼食は好きな食材をボウルにとって食べるタコスで、なかなかない経験で楽しかったしおいしかったです。

3 日目はホストファミリーとゆっくりできる最後の休日で、午前中はサンフランシスコの有名どころへ連れて行ってもらい、午後からは普段のホストファミリーの休日の過ごし方に混ぜてもらいました。エルトンのお散歩や地元のプールを見に行ったり、スピード UNO を伝授してもらったりしました。

4 日目は初めてのノースゲート高校での授業で数学や化学、体育などの授業をホストフレンドと受けました。英語やスペイン語などの授業はとても難しく、また、日本の高校とは非常に違いわくわくしたとともにとても疲れました。特に驚いたことは毎日時間割が一緒ということです。学校が終わり、16 時から 2 時間モニカと一緒にスイミングチームに泳ぎに行きました。モニカは水球の部活もあったため前半で帰ってしまい、後半 1 時間は一人で地元の子と話し練習していました。日本の水泳部の練習と違い、コミュニケーションを取る時間が設けられており、たくさん話を振ってくれた地元のクラブチームの子にはとても感謝しています。また、緊張もほぐれ楽しめました。

5 日目は北区の派遣生でウォールナットクリーク市を周る日で、たくさんの絵を見て、ショッピングができました。この日の最後にはホストファミリーの前で北区についての発表があり、家に帰ったらたくさんほめもらいました。

6日目、7日目は15時まで学校に通い、16時から2時間水泳の練習をしました。学校ではモニカの友達とも交流をし、日本にとても興味を持って質問してくれ、ご飯なども一緒に楽しめました。

8日目は3時まで普段通り学校へ通い、夕方からFarewell Partyがあり、タコスを楽しんだり、スポーツを楽しんだりしました。

帰国の日には手紙やプレゼントをもらい、またお家に行きますと約束をしました。1週間ほどのホストファミリーとの生活でしたが、ほんとの家族になれた気がして向こうに留まっていたかったです。

最初はこのような未熟な英語でホームステイに行くのが心配でしたがたくさんの支えや交流をして、自分から積極的に行動をすることが大事であることがとても分かりました。学んだことで今後の進路などを決め、英語の勉強に励んでいきたいと思います。



**2025 年 北区青少年交流団
ウォルナットクリーク市派遣報告書**

2026 年(令和 8 年)1月発行

編集・発行

北区 総務部 総務課

〒114-8508 北区王子本町一丁目 15 番 22 号

電話 (03) 3908-9308